



2017年9月20日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03-5475-6309
<https://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598106
アウディ コミュニケーションセンター

新型 Audi Q5 を発売

● プレミアム SUV の世界的トップセラー、8年ぶりのフルモデルチェンジ

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹）は、プレミアムミッドサイズ SUV の Audi Q5 を 8年ぶりにフルモデルチェンジし、10月2日（月）から全国のアウディ正規ディーラー（125店舗：現時点）を通じての販売を開始します。

Audi Q5 は、Audi Q7 に続く Audi Q シリーズの第 2 弾として 2009 年に日本市場でデビュー。視界の良い高めのシートポジション、広くて多目的に使えるキャビンといった SUV ならではの持ち味に、アウディの特徴であるスポーティでエレガントなデザイン、卓越した走行性能と先進テクノロジーを融合したモダンでオールラウンドな SUV として、発売直後からセグメントのトップセラーとなりました。発売から 8 年間で世界の累計販売台数は 160 万を超え、昨年も世界で約 28 万台をデリバリーするなどアウディの数ある車種の中でも、最も成功したモデルの一台となっています。

今回フルモデルチェンジを果たした 2 世代目は、新しい MLB evo のモジュラープラットフォームをベースに、デザイン、メカニズムを一新。ボディサイズは若干拡大しながら、徹底した軽量設計により、車両重量を従来型比 60kg 削減し、エンジン（2.0 TFSI）もパワーアップと同時に効率化も図って、運動性能をより一層高めながら、燃費を 11%改善しています。

テクノロジーの面では、歩行者検知機能付き衝突軽減システムである「アウディプレセンスシティ」などの先進的な予防安全システムに加え、「アダプティブクルーズコントロール（ACC）」を全車標準装備（「トラフィックジャムアシスト」付きは、2017 年 12 月に導入予定。）また、デジタル多目的ディスプレイの「アウディバーチャルコックピット」や「マトリックス LED ヘッドライト」などが、Audi Q5 シリーズでは初めて設定されます。全モデルに搭載される 4WD の quattro も、予測的な制御を行う新しいシステムを採用することで、実走行での燃費効率を高めています。

新型 Audi Q5 では、最新のコネクティビティー機能も搭載されました。MMI タッチナビゲーションを介して、Audi connect によるインターネットからの情報サービスや、Wi-Fi スポット機能、スマートフォンインターフェイスなどを標準装備しています。今年から搭載が始まった「セーフティ&サービス」も搭載され、Audi SOS コール、Audi オンラインロードサイドアシスタンス、Audi メンテナンスリクエスト、myCar Manager の 4 つの機能を提供します。

パワートレインは、最大出力 185kW（252PS）を発揮する 2.0 TFSI エンジンに 7 速 S トロニックを組み合わせ、quattro 4WD システムにより駆動します。シャシーは、新開発の電動パワーステアリングと、前後に 5 リンクのサスペンションを採用し、ハンドリングと乗り心地を高度なレベルで両立させています。オプションで新開発のエアサスペンションも設定され、Audi drive select で、「lift / offroad」、「allroad」モードを含む 7 つのセッティングが選択でき、舗装路からオフロードまで幅広い走行条件に対応します。

初代で好評を得たオリジナルな資質に、最新のテクノロジーを採用してさらなる磨きをかけた新型 Audi Q5 は、デザイン、ユーティリティ、走行性能、快適性、サステナビリティ、先進性、品質、いずれの面でも高いスタンダードを実現した真にオールラウンドなプレミアム SUV で、このセグメントの新たなベンチマークを確立しています。

今回発売する Audi Q5 のモデルと価格（消費税込）は以下のとおりです。

●Audi Q5 2.0 TFSI quattro 6,570,000 円

	Audi Q5 2.0 TFSI quattro
全長 mm	4,680
全幅 mm	1,900
全高 mm	1,665*1
ホイールベース mm	2,825
車両重量 kg	1,820*2,*3
JCO8 モード燃費 km/ℓ	13.9
総排気量 cc	1,984
エンジン種類	直列 4 気筒 DOHC インタークーラー付ターボチャージャー
最高出力 kW(PS)/rpm	185(252)/5,000-6,000
最大トルク Nm/rpm	370/1,600-4,500
駆動方式	quattro (4WD)
トランスミッション	7 速 S トロニック
タイヤ	235/60R18
車両本体価格（税込）	6,570,000 円

*1：エアサスペンション装着車は全高が 1,640mm となります

*2：エアサスペンション装着車は車両重量が 1,830kg となります

*3：パノラマサンルーフ選択時は+20kg となります

新型 Audi Q5 の概要

■ 若干拡大したボディサイズ、軽くなった車両重量、クラストップレベルの Cd 値

新型 Audi Q5 のボディは全長 4,680mm 全幅 1,900mm 全高 1,665mm、ホイールベース 2,825mm で、従来の Audi Q5 と比較すると、50mm 長く、5mm 高く、ホイールベースも 15mm 長くなっています（全幅は同一）。新しいテクノロジープラットフォームである MLB evo をベースにし、軽量設計を徹底した結果、重量は 60kg 削減することに成功しました（日本仕様の従来型 Audi Q5 2.0 TFSI quattro との比較）。またボディは、エアロダイナミクスの面でも、Cd:0.30（欧州仕様）を達成するなど、セグメントをリードする仕上がりになっています。

■ スポーティなエクステリアと広々としたインテリア

筋肉質でスポーティな新型 Audi Q5 のエクステリアは、クーペのようなルーフライン、quattro を象徴するホイールアーチのフレア、ラップラウンドデザインのボンネットとテールゲートなどが特徴です。より幅広く平たくなったシングルフレームグリルは、Audi Q7 同様、六角形のフレームを介して、左右のヘッドライトと接しています。5 人乗りのキャビンは、従来型に対しあらゆる面で広がっており、とくにショルダー룸とエルボールームは、クラストップの値を実現しました。インテリアの広々感、デザインを通じても強調されており、水平基調のデザインにより、進歩的かつエレガントな雰囲気が演出されています。ラゲージ容積は、5 人乗りの状態で 550ℓ 確保されており（従来型比+10ℓ）、後席を折りたたむことで、1,550ℓ まで拡大することができます。

■ MMI タッチとオーディオバーチャルコックピット

オーディオの先進性を象徴するテクノロジーのひとつである統合型インフォテイメントシステムの MMI は、デザインと操作ロジックを一新した「MMI タッチ」に進化して、さらに機能と使い勝手を改善しました。この MMI タッチには、8.3 インチの高解像度カラーモニターと、指を使った文字入力や画面のズームリングなどが可能なタッチパネルが採用されています。新しい操作ロジックは、スマートフォンのそれに倣ったもので、2~3° の操作で必要な機能にアクセスすることができます。これには「MMI サーチ」と呼ばれる検索機能も備わっており、文字を一つ入力しただけでも検索結果が示されます。また、音声によるコマンドにも対応してくれます。メーターパネルは、今回からオプションで「オーディオバーチャルコックピット」も選べるようになりました。これは、1,440×540 ピクセルの高解像度を誇る 12.3 インチ大型 TFT モニターに、メーター類、DIS（ドライバーインフォメーションシステム）のほか、ナビゲーションの機能まで一元化したシステムで、タコメーターの針などもスムーズで正確な動きを示します。

■ Audi connect とインフォテイメント

新型 Audi Q5 に標準装備されるナビゲーション機能付きのインフォテイメントシステムには、Audi connect のモジュールが含まれており、LTE の高速通信を利用して、インターネットとの常時接続及び Audi connect 固有のオンライン、オペレーターサービスなどを利用することができます。また、オーディオスマートフォンインターフェイスの機能により、手持ちのスマートフォンを USB ポートを介してクルマにつなげば、ナビゲーションや音楽データ、特定のアプリなどが、使い慣れたスマートフォンのようなレイアウトで MMI のモニターに映し出され、MMI コントローラー、マルチファンクションステアリングホイール、もしくはボイスコントロールシステムを介して操作することができます。

■ Audi connect 「セーフティ&サービス」

また今年から搭載が始まった、Audi connect「セーフティ&サービス」も搭載されます。これは、Audi SOS コール、Audi オンラインロードサイドアシスタンス、Audi メンテナンスリクエスト、myCar Manager の4つの機能を持ちます。たとえば、「Audi SOS コール」は、エアバッグやシートベルトプリテンショナーが作動するような事故発生時に、自動的に SOS コールを発信します。この機能では、正しい位置データおよび車両状態を送信し、コールセンターアドバイザーが素早く正確で、わかりやすいアシストを行うサービスです。

「myCar Manager」では、スマートフォンの専用アプリを通じて、車両に関する様々な機能を利用することができます。例えばスマートフォンから、車両のドアの施錠や解錠、車両の駐車位置の確認などを行なうことができるほか、スマートフォンで検索した目的地を、クルマのナビゲーションに転送しておけば、乗車してすぐに出発することができます。

■ 2.0 TFSI エンジンと新開発の 7 速 S トロニック

新しい Audi Q5 quattro に搭載される 2.0 TFSI エンジンは、従来型よりも 22PS、20Nm アップした最大出力 185kW（252PS）と最大トルク 370Nm を発揮。軽量化したボディとあわせて、Audi Q5 の運動性能を大幅に高める一方で、燃費効率は 13.9km/ℓ（JC08）と、従来型に対し 11%の改善を実現しています。全モデルに標準搭載される 7 速 S トロニックも、今回全面的に再設計され、従来のものより軽くなり、効率も高まりました。7 段ある前進ギヤは、低速側には加速重視の短いレシオを採用し、高速側のギヤは逆に、走行中のエンジン回転数を下げて燃料消費を削減するため、高めの設定になっています。

■ 運動性能に効率を融合した最新の quattro システム

quattro 4WD システムは、クルマの運動性能、トラクション、安定性を最適化させる究極のテクノロジーです。従来の「セルフロックング センターディファレンシャル」タイプでは、エンジントルクの 60% をリアアクスルに、40% をフロントアクスルに振り分けていましたが、新型 Audi Q5 では、実走行での無駄な駆動抵抗を減らし、効率化を極める新しいインテリジェントな quattro システムが採用されました。

具体的には、トラクション面での負荷が小さく、4WD 走行の必要性が乏しい場合には、トランスミッション後端のAWDクラッチと、リヤディファレンシャル内のデカップリングクラッチをリリースして、FWD（前輪駆動）で走ります。このとき、プロペラシャフトとリヤディファレンシャルは駆動系から切り離され走行抵抗は最小化されます。この新テクノロジーの真にユニークなポイントは、そこから4WDへ切り替えるプログラムで、ステアリング角、前後左右の加速度、エンジントルクなど数多くのセンサーから送られてくる情報をもとに、インテリジェントな能力を備えた制御システムが走行状況を常に「先読み」し、4WDのトラクションが必要となる「直前」に2箇所のクラッチを素早く接続して、quattroモデルならでの走行性能が発揮されるようにします。そのため通常の quattro モデルに対し、安定性、運動性能、走破性の面でデメリットはありません。

■ 先進的なセーフティ&アシスタンスシステム

新型 Audi Q5 シリーズには、「アダプティブクルーズコントロール (ACC)」や、衝突軽減システムの「アウディプレセンスシティ」など、様々なタイプのアシスタンスシステムが用意されています。

アダプティブクルーズコントロール (ACC)

標準装備のACCは、フロントレーダーとカメラにより、システムがアクセルとブレーキをコントロールして車間を維持するシステムで、快適性と安全性の両面でドライバーの負担を軽減します。ドライバーは、車間距離を5段階に設定できるほか、Audi drive select で追従のロジックの設定ができます。また、「トラフィックジャムアシスト」付きACCは、速度が65km/h以下で道路が混雑し、なおかつ比較的整備された路面上を走っている場合には、システムが加減速だけでなく、同一車線内でのステアリング操作まで代行します。(トラフィックジャムアシストの機能は、当初デリバリーする新型 Audi Q5 には搭載されません。2017年12月以降に販売されるモデルに標準装備の予定です。)

アウディプレセンスシティとアウディプレセンスベーシック

新型 Audi Q5 に標準設定された予防安全システムの「アウディプレセンスシティ」は、約10~85km/hの速度で走行中、フロントウインドーに設置されたカメラを利用して、前方100mの範囲内にいる他のクルマや歩行者を検知し、接触の可能性があるると判断された場合には、ドライバーに様々な形で警告を送り、必要であればブレーキも発動させます。40km/h未滿で走行している場合には、多くの場合で、事故を防げる可能性があり、それより高い速度(85km/h以下)でも、衝突時の速度(=衝撃)を低減する効果があります。同じく標準設定された「アウディプレセンスベーシック」は、事故の危険などが迫ったときの予防策を講じるシステムで、危険が迫っていると判断されたときには、前席のシートベルトのテンションを高め、開いているウインドーとサンルーフを、わずかの隙間を残して閉じます。同時にハザードランプも点滅させます。

アウディアクティブレーンアシスト

ドライバーの車線維持をサポートするシステムで、65km/h以上の速度で走行している場合に機能します。主にフロントカメラを介してロードマーカを確認し、ドライバーがウインカーを操作しないままクルマが車線を逸脱しそうになった場合には、パワーステアリングに穏やかに介入して、クルマを車線内に維持します。(このアウディアクティブレーンアシストは、2017年12月以降に販売されるモデルに標準で装着される予定です。)

ターンアシスト

Audi Q5 シリーズに今回初導入されたもうひとつの新しい機能が「ターンアシスト」です。これは、2~10km/hの速度範囲において、右折時に対向車を監視し、危険な状況だと判断すると、クルマにブレーキをかけるシステムで、ドライバーが反対車線に向かう形で右折のウインカーを操作すると、自動的にスタンバイの状態になります。

オーディオサイドアシスト（アシスタンスパッケージとしてオプション）

このシステムは、15km/h以上の速度で走行中、2つのリヤレーダーセンサーを使って約70mの範囲を監視し、ドライバーの車線変更をサポートします。他のクルマが急速に近づいて来るか、ブラインドスポットに存在するなどした場合には、その側のサイドミラーに設置された警告用のLEDライトを点灯させます。それでもドライバーがウインカーを操作して車線変更の意思を示した場合には、LEDライトが明るさを増して、激しい点滅を繰り返し、ドライバーに警告します。

オーディプレセンスリヤ（アシスタンスパッケージとしてオプション）

後方からの衝突の危険を察知して、オーディプレセンスベーシックと同様の乗員保護対策を実行するシステムです。同時にハザードランプを激しく点滅させて、後方から近づくクルマに警告します。このオーディプレセンスリヤには、リヤクロストラフィックアシストとエグジットワーニングという2つの機能があり、そのうち前者は、車両の後退操作をサポートするシステムで、駐車スペースからクルマをゆっくりバックさせている場合など、危険な範囲に近づいてくるクルマが検知されればドライバーに警告を発します。もうひとつのエグジットワーニングは、停車してから約3分のあいだ稼働し、後方から別のクルマが近づいて来ると、ドアを開けようとしている乗員に対し警告を発します。警告は、インナードアハンドルの上に設置されたLEDライトにより行われ、危険と判断された場合には赤い光で激しく点滅を繰り返します。

■ マルチマテリアルの軽量ボディとランニングギヤ

従来型に対し20kg重量を減らしてクラス最軽量を実現したボディは、フロントクロスメンバーやストラットドーム、ボンネットやテールゲートなどにアルミを使う一方で、キャビン回りには強固に優れた熱間成型スチールを多用して、衝突時の優れた乗員保護能力も確保しています。軽量設計はランニングギヤ（足回り関係）でも徹底されており、前後5リンク式のサスペンションは、リンク類をすべてアルミ製にするとともに、スタビライザーは中空化してバネ下重量を最小化。さらにサブフレームのマウントの設計を工夫するなどして、スムーズな乗り心地も得ています。なお、新型Audi Q5ではオプションで、車高調整機能を備えたアダプティブエアサスペンションも選ぶことができ、その働きは、パワーステアリング、エンジン、Sトロニックなどとともに、全モデルに標準搭載されているオーディドライブセレクトのモード選択を介して、ドライバーが任意に調整することが可能です。

アダプティブエアサスペンション付きモデルでは、車高は標準で通常のスチール製サスペンションに比べて22mm低くなります。lift/offroadモードでは45mm上がり、allroadモードでも22mm高くなります。逆に、dynamicモードでは15mm下がります。また、ラゲッジコンパートメント内のボタンを押せば、リアは55mm下がり、荷物の搭載を容易にします。

以上